

2011年度 輸送の安全に関する取り組み

1. 輸送の安全に関する基本的な方針

当社にとって最大の責務である「輸送の安全の確保」に関する基本的な方針として「安全方針」を定め、その実践により全社員が一丸となって安全・快適な輸送サービスの提供に努めています。また、輸送の安全に関する情報については積極的に公表します。

安 全 方 針

・安全はすべてに優先

私たちは、安全な運行・車両を提供するとともに、お客さまの安全を最優先に行動することにより、一致団結して輸送の安全を確保します。

・法令や規則を遵守

私たちは、輸送の安全に関する法令や規則を遵守し、厳正かつ忠実に職務を遂行します。

・推測に頼らず、必ず確認

私たちは、職務の実施にあたり、推測ではなく、常に輸送の安全に関する状況を確認し、情報は正確かつ迅速に伝えます。

・問題意識を持ち、変革に挑戦

私たちは、常に輸送の安全の確保に向けた問題意識を持ち、安全におけるPDCAサイクルを徹底することにより、変革に挑戦します。

2. 輸送の安全に関する重点施策

「安全方針」に基づき策定した、2011年度の当社における輸送の安全に関する重点施策は以下のとおりです。

- (1) 関係法令および安全管理規程の遵守
- (2) 安全・快適な輸送サービスに資する投資の実施
- (3) 連絡体制の確立と情報共有による異常時対応の迅速化
- (4) 事故防止に向けた重点施策の完全実施

①指差呼称

②右左折時の一旦停止

③停留所発着時のお客さまの安全確認

④エリア独自の重点施策

(東京エリア) 交通弱者(歩行者・子ども・二輪車)の保護

(神奈川エリア) 二輪車・歩行者の保護

(トランセエリア) 車間距離の保持

3. 輸送の安全に関する計画（教育および研修を含む）

「輸送の安全に関する重点施策」に基づく具体的な取り組みは以下のとおりです。

（1）事故防止対策

①重点施策の完全実施

- ・ネックホルダーの着用・唱和による周知
- ・基本的な実施方法をまとめたマニュアルの作成
- ・起終点およびターミナルにおける街頭指導の実施
- ・定点調査・添乗調査等による実施率の把握



重点施策を記したネックホルダー

②運行管理の徹底

- ・事故防止運動の実施
（全国交通安全運動・自動車輸送安全総点検 等）
- ・点呼実施要領の再教育
- ・本社役職者による点呼等実施状況の確認
（各種運動初日・安全を確認する日・いのちの日 等）

③危険予知能力の向上

- ・ヒヤリハット情報および事故事例を収めたDVDの作成
- ・小集団活動における、なぜなぜ分析の実施



事故事例についてなぜなぜ分析を実施し再発防止対策を立案

④健康管理対策の充実

- ・定期健康診断の実施（年2回）
- ・保健師による心身の健康相談の実施（月1回）

（2）コミュニケーション

①本社役職者による営業所訪問

- ・運動初日巡視（年4回）
- ・安全を確認する日（年12回）
- ・いのちの日（年4回）
- ・社長・安全統括管理者による役員講話（年2回）
- ・安全統括管理者・営業部長による意見交換会（年2回）



スライド資料を用いた役員講話

②関連会社との連携

- ・運行委託先（東急トランセ）との連絡会の開催
- ・同業他社との情報交換の実施



車座で行なう意見交換会

(3) 情報の伝達・共有

①会議体の開催

- ・ 本社部門と現業部門：安全推進会議、現業長会議、技術安全会議 等
- ・ 現業部門内：事務員会議、チーム会議、事故防止研究会、工場員会議 等

②運輸安全マネジメントに関する情報発信

- ・ グループ社内報の発行
- ・ 運輸安全マネジメント情報の発行
- ・ お客さまセンターだよりの発行
- ・ 教育資料のリニューアル



季刊発行のグループ社内報

(4) 教育および研修

①教育・研修スケジュールに基づく実施

- ・ 乗務員：定期研修（3年毎）
安全運転中央研修所への派遣 等
- ・ 事務員：定期研修（1年毎）
飲酒運転防止インストラクター講習の受講 等



事故発生時の対応をひとつずつ確認

②安全意識・運転技能の向上

- ・ 安全運転訓練車・ドラレコ映像・デジタコの活用
- ・ 安全運転講習会の開催
- ・ 外部講師による飲酒・薬物・安全に関する講演会の開催



講演会では安全に関する知識を習得

③お客さまサービスの向上

- ・ 事例訓練の実施
(ベビーカー・車椅子・運賃收受 等)

(5) 安全・安心な車両

①車両故障の削減

- ・ 発生した路上故障の情報共有
- ・ 法定点検（3月毎）に加えた自主点検（1月毎）の実施

②事故防止対策への投資

- ・ ヘリマス（バス安全走行支援システム）の増設
- ・ 車内事故防止に資する床面ステッカーの貼付



ご乗車時の目線に合わせて床面に貼付

**4. 輸送の安全に関する目標および当該目標の達成状況、
ならびに自動車事故報告規則第2条に規定する事故に関する統計**

2010年度の自動車事故報告規則第2条に規定する事故の発生件数は7件で、目標である8件以下に収めることができました。2011年度も引き続き事故防止に努め目標達成を目指します。

年 度	目 標	実 績	内 訳	
2010年度	8件以下	7件	人身事故・人身物損事故	3件
			車内事故	4件
2011年度	7件以下	一件	人身事故・人身物損事故	一件
			車内事故	一件

5. 輸送の安全に関する内部監査結果およびこれを踏まえた措置内容

運輸安全マネジメントの実施状況を確認するため、輸送の安全に関する内部監査を年1回実施しています。2010年度の実施概要は以下のとおりです。

実施期間：2010年10月～11月

監査対象：社長・安全統括管理者・全営業所・全工場・本社全部門

監査結果：改善事項として指摘を受けた「ヒヤリハット情報の収集・活用」について、
2010年度中には是正策が実施されたことを確認しました

6. 輸送の安全に関する予算等の実績額

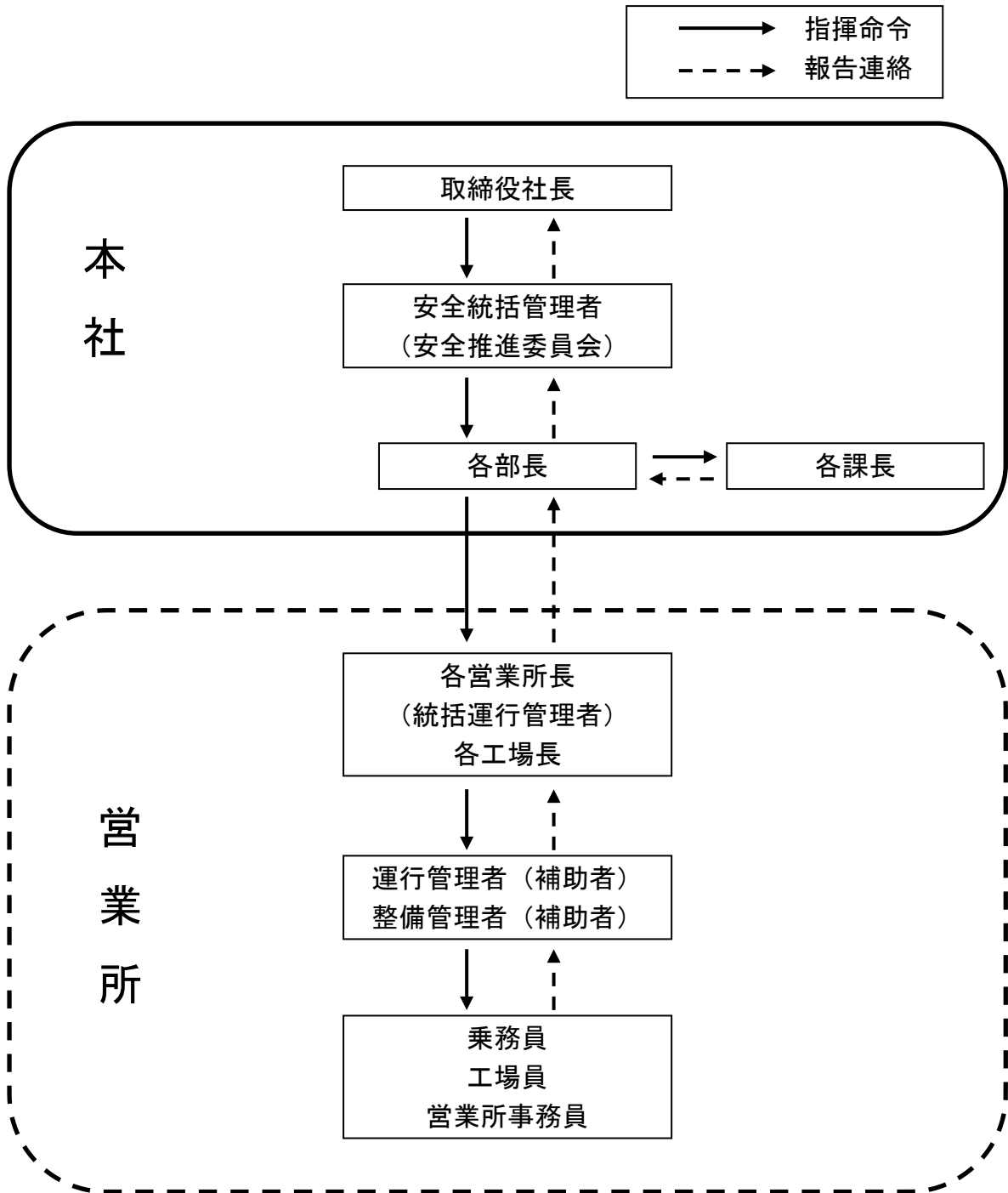
輸送の安全に関する2010年度の実績額および2011年度の予算額は以下のとおりです。

(単位：百万円)

項 目	2010年度 実績額	2011年度 予算額
教育・指導に係る費用	77	105
健康管理に係る費用	42	62
車両に係る費用	1,409	1,543
停留所等施設に係る費用	64	42
合 計	1,592	1,752

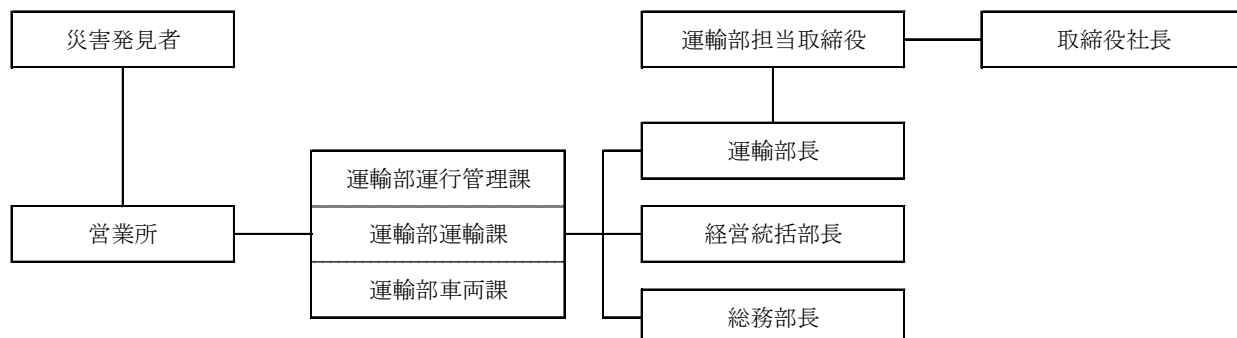
7. 輸送の安全に関する組織体制および指揮命令系統

輸送の安全に関する組織体制および指揮命令系統を「安全管理体制」として定め、それぞれの役割については安全管理規程 第8条で明確にしています。



8. 事故・災害等に関する報告連絡体制

事故・災害等が発生したときの報告連絡体制は以下のとおりです。なお、情報伝達訓練を年2回実施しています。



9. 安全統括管理者

社長により選任された安全統括管理者は以下のとおりです。

氏名	役職	期間
山岡 芳行	専務取締役	2010年4月1日～

10. 安全管理規程

2011年6月1日改正

東急バス 安全管理規程

第1章 総 則

(目的)

第1条 本規程は、道路運送法（以下「法」という）第22条の2第2項の規定および国土交通省から公表された「運輸事業者における安全管理の進め方に関するガイドライン～輸送の安全性の更なる向上に向けて～（平成22年3月）」に基づき、輸送の安全を確保するために遵守すべき事項を定め、もって輸送の安全性の向上を図ることを目的とする。

(適用範囲)

第2条 本規程は、当社の一般旅客自動車運送事業に係る業務活動に適用する。

第2章 輸送の安全を確保するための事業の運営方針等

(安全方針および輸送の安全に関する重点施策)

第3条 社長は、輸送の安全の確保が事業経営の根幹であることを深く認識し、事業活動を行なう体制の整備に努めるとともに、施設、車両および自動車運送事業に携わる全従業員（以下「従業員」という）を総合活用して輸送の安全を確保するため、次のとおり輸送の安全に関する基本的な方針（以下「安全方針」という）および輸送の安全に関する重点施策（以下「重点施策」という）を定め、社内において輸送の安全の確保に主導的な役割を果たす。また、営業所等における安全に関する声に真摯に耳を傾ける等営業所等の状況を十分に踏まえつつ、従業員に対し輸送の安全の確保が最も重要であるという意識を常に徹底させる。

(1) 安全方針

①社長は、輸送の安全の確保に関する全社的な意図および方向性を明確に示した「安全方針」を次のとおり策定し、従業員に周知徹底する。

・安全はすべてに優先

私たちは、安全な運行・車両を提供するとともに、お客さまの安全を最優先に行動することにより、一致団結して輸送の安全を確保します。

・法令や規則を遵守

私たちは、輸送の安全に関する法令や規則を遵守し、厳正かつ忠実に職務を遂行します。

・推測に頼らず、必ず確認

私たちは、職務の実施にあたり、推測ではなく、常に輸送の安全に関する状況を確認し、情報は正確かつ迅速に伝えます。

・問題意識を持ち、変革に挑戦

私たちは、常に輸送の安全の確保に向けた問題意識を持ち、安全におけるPDCAサイクルを徹底することにより、変革に挑戦します。

②安全方針は、その内容について効果的・具体的な実現を図るため、社長の率先垂範により、周知を容易かつ効果的に行なう。

③安全方針に関する社員の理解度および浸透度を定期的に把握し、必要に応じて見直しを行なう。

(2) 重点施策

①社長は、以下の内容を踏まえた「重点施策」を、年度毎の運輸安全マネジメントに関する取り組みにおいて策定し、従業員に周知徹底する。

- i 安全方針に基づき、輸送の安全を確保するために必要な重点施策を策定する。
- ii 数値等を用い可能な限り具体的な目標とする等、従業員が理解し易く、かつ、モチベーションが高まるものとする。また、事後的にその達成状況を検証・評価できるものとする。
- iii 事故やヒヤリ・ハットの発生状況、営業所等からの改善提案および輸送現場の安全に関する課題等を具体的かつ詳細に把握し、それらの課題の解決・改善に直結するものとする。
- iv エリア毎の独自の施策についても盛り込むものとする。

②社長は、重点施策について定期的に進捗・達成状況を把握するとともに、少なくとも1年毎にマネジメントレビューを行なう。

(グループ会社の協力)

第4条 当社は、旅客自動車運送事業を委託している株式会社東急トランセと相互に協力・連携して、一丸となって輸送の安全性の向上に努める。

第3章 輸送の安全を確保するための事業の実施およびその管理体制

(社長の役割等)

第5条 社長は、輸送の安全の確保に関する最終的な責任を有する。

- 2 社長は、輸送の安全の確保に関し、予算の確保、体制の整備等必要な措置を講じる。
- 3 社長は、輸送の安全の確保に関し、安全統括管理者の意見を尊重する。
- 4 社長は、輸送の安全を確保するための業務の実施および管理の状況が適切かを常に確認し、必要な改善を行なう。
- 5 社長は、次に掲げる事項について、主体的に関与し、別表1に示す安全管理体制の構築・運営を適切に実施する。
 - (1) 関係法令等の遵守と安全最優先の原則を従業員へ徹底する。
 - (2) 安全方針を策定する。
 - (3) 重点施策を策定する。
 - (4) 重大な事故等への対応を実施する。
 - (5) 安全管理体制を構築・改善するため、また、輸送の安全を確保するために、必要な要員、情報、輸送施設等（車両等）を使用できるようにする。
 - (6) 必要に応じてマネジメントレビューを実施する。
- 6 社長は、確固たる安全管理体制の実現を図るため、本規程に掲げる内容について、安全統括管理者により実施されることを主導する。
- 7 社長は、運輸安全マネジメントを推進させるため安全推進委員会を設置するとともに、安全推進会議の事務局をこれに置く。

(安全統括管理者の選任および解任)

第6条 社長が、取締役のうち、旅客自動車運送事業運輸規則第47条の5に規定する要

件を満たす者の中から安全統括管理者を選任する。

2 安全統括管理者が次の各号のいずれかに該当することとなったときは、当該管理者を解任する。

- (1) 人事異動等により安全統括管理者の要件を満たさなくなったとき
- (2) 国土交通大臣の解任命令が出されたとき
- (3) 身体の故障その他のやむを得ない事由により職務を引き続き行なうことが困難になったとき
- (4) 関係法令等の違反または輸送の安全の確保の状況に関する確認を怠る等により、安全統括管理者がその職務を引き続き行なうことが輸送の安全の確保に支障を及ぼすおそれがあると認められるとき

(安全統括管理者の責任・権限)

第7条 社長は、社長のリーダーシップの発揮、安全管理体制の適切な運営、社内の安全最優先意識の徹底を実効的とする観点から、安全統括管理者に、次に掲げる責任・権限を与える。

- (1) 安全管理体制の確保に必要な手順および方法を確立し、実施し、維持し、改善する。
- (2) 安全管理体制の課題または問題点を的確に把握する立場として、重点施策の進捗状況、情報伝達およびコミュニケーションの確保、事故等に関する情報、是正措置および予防措置の実施状況、安全管理体制の実施状況および改善の必要性の有無、その他必要と判断した情報等を的確に把握し、適時・適切に社長へ報告する。
- (3) 輸送の安全を確保するため、従業員に対して必要な教育または研修を行ない、関係法令等の遵守と安全最優先の原則を徹底する。
- (4) 輸送の安全に関する内部監査(以下「内部監査」という)を行ない、その結果を社長に報告する。
- (5) 運行管理が適正に行なわれるよう、営業所等の状況を十分に踏まえ、運行管理者を統括管理する。
- (6) 整備管理が適正に行なわれるよう、工場等の状況を十分に踏まえ、整備管理者を統括管理する。
- (7) 安全推進委員会を統括し、原則として四半期毎に安全推進会議を開催する。

(社内組織)

第8条 当社の自動車運送事業における輸送の安全の確保に関する組織体制および指揮命令系統は別表1のとおりとし、各々の役割を次のとおり規定する。

- (1) 安全統括管理者
輸送の安全の確保に関する業務を統括する。
- (2) 従業員の責任・権限
安全統括管理者は、安全管理体制を適切に確立し、実施し、維持するために必要な従業員の安全マネジメントに関する責任・権限を以下のとおり定め、該当する従業員にその責任・権限を与える。
 - ① 経営統括部長
安全統括管理者の指揮の下、輸送の安全の確保に関わる資金の調達ならびに要員の配置に関する事項を統括する。
 - ② 総務部長
安全統括管理者の指揮の下、お客さま対応の推進ならびに外部への公表を統括す

る。

③運輸部長

安全統括管理者の指揮の下、施設および車両、要員を総合的に活用し、各営業所の業務および輸送の安全を確保するための業務を統括する。

④営業所長

安全統括管理者の指揮の下、輸送の安全の確保に関し、営業所内の業務を統括する。

⑤工場長

安全統括管理者の指揮の下、輸送の安全の確保に関し、工場内の業務を統括する。

⑥運行管理者

安全統括管理者の指揮の下、輸送の安全の確保に関し、営業所の運行管理業務を指導・監督する。

⑦整備管理者

安全統括管理者の指揮の下、輸送の安全の確保に関し、営業所の整備管理業務を指導・監督する。

- 2 輸送の安全に関する組織体制および指揮命令系統については、安全統括管理者が病気等を理由に本社に不在である場合や重大な事故、災害等に対応する場合も含め、担当取締役がその職務を代行する。

第4章 輸送の安全を確保するための事業の実施およびその管理方法

(関係法令等の遵守の確保)

第9条 輸送の安全を確保する上で必要な次の事項に係る関係法令等を遵守する。

- (1) 輸送に従事する要員の確保
- (2) 輸送施設の確保および作業環境の整備
- (3) 安全な輸送サービスの実施およびその監視
- (4) 事故等への対応
- (5) 事故等の再発防止措置および予防措置

- 2 安全統括管理者は、関係法令等の改正状況について、国土交通省HP、総務省HP、官報、バス事業団体の法改正情報等をモニタリングすることにより把握し、必要に応じて対応する。

- 3 個人情報保護のため、輸送の安全を確保する上で知り得たすべての情報について情報管理基本規程等を踏まえ、適切に管理する。

(重点施策の実施)

第10条 安全方針に基づき、輸送の安全に関する目標を達成すべく、輸送の安全に関する計画に従い、重点施策を着実に実施する。

(輸送の安全に関する情報の共有および伝達)

第11条 安全統括管理者は、従業員との双方向の意思疎通を充分に行なうことにより、輸送の安全に関する情報が適時・適切に社内において伝達され、共有されるよう次項に掲げる取り組みを実施する。また、安全性を損なうような事態を発見した場合には、看過したり、隠蔽したりせずに、直ちに関係者に伝え、適切な対処策を講じる。

- 2 情報伝達およびコミュニケーションを確保するために次のように規定する。

- (1) 安全統括管理者は、関係法令等の遵守および安全最優先の原則の重要性を、深く自覚するとともに従業員へ徹底する。
- (2) 従業員に、以下の輸送の安全の確保に係る的確な情報伝達およびコミュニケーションを実現する。
 - ①安全統括管理者と営業所等との双方向コミュニケーションとして、トップダウンの一方のコミュニケーションだけでなく、営業所等の顕在的課題・潜在的課題等が営業所等から安全統括管理者に対してボトムアップされるコミュニケーションを確保する。
 - ②関係する部門間の情報の流れの滞りや共有不足等に起因する輸送の安全の確保に関するトラブル等を防止するため、従業員間において縦断的・横断的に輸送の安全の確保に必要な情報を共有する。
- (3) 関係法令等に従い、当社において輸送の安全を確保するために講じた措置、講じようとする措置等の輸送の安全に関わる情報を外部に対して公表する。また必要に応じて、利用者に対し、利用者の不適切な行動が輸送の安全の確保に影響を与えるおそれがあることを伝える等の安全啓発活動を適時・適切に行なう。
- (4) さらに、次に掲げるような措置を講ずる。
 - ①輸送の安全の確保に関する情報のデータベース化と、それに対する適切な情報管理に基づく有効な活用手段の確保。
 - ②安全統括管理者等への目安箱として、ヘルプラインを設置。

(運行の管理と実施)

第12条 運行管理規程に基づき、安全かつ最良な方法にて管理・実施する。

(整備の管理と実施)

第13条 整備管理者服務規程に基づき、安全かつ最良な方法にて管理・実施する。

(事故、災害等に関する情報の報告等)

第14条 事故、災害等に関する情報の報告等および輸送の安全上のリスク（潜在的な危険）に対して次のように規定する。

- (1) 安全統括管理者は、輸送の安全を確保するため、事故等に関する情報（不具合情報、リスク（輸送の安全上の潜在的課題）情報等を含む）の報告手順を定め、それらの情報を収集する。収集した情報のうち輸送の安全確保のために特に重要な情報については、社長まで適時・適切に報告する。
- (2) 事故等に関する情報を明確にするために、営業所等からの情報収集に加え、社長の主体的な関与により、得られた報告を分類して整理し、営業所等における類似事例を明確にすること等により、輸送の現場におけるリスクを明確にする。
- (3) 安全統括管理者は、前2号により把握した事故等に関する情報について、その根本的な原因を究明し、対策を立てるべき原因を絞り込み適切にその対応措置を講じる。その際、輸送の安全上のリスクとその課題が顕在化した場合の被害規模、被害程度の評価を含め実施する。
- (4) 必要に応じ、事故、トラブルの再発防止の観点から、組織・個人を問わず、各種エラーや「事故の芽」となり得る事象やその対応措置については、第9条第3項を踏まえ、これらが確実に報告されるシステム構築に向けた環境整備を図る。
- (5) さらに、不具合情報、リスク情報を明確にし、その対応措置を適切に講じるため、当社における対応措置のみならず、他の事業者や他のモードにおける事例を的確に

活用する。

- 2 事故、災害等が発生した場合における当該事故、災害に関する報告連絡体制は、異常時対策規程 別表第2（災害発生のお知らせ 自動車事業関係）の定めるところによる。
- 3 事故、災害等に関する報告が、安全統括管理者または社内の必要な部門等に速やかに伝達されるように努める。
- 4 安全統括管理者は社内において報告連絡体制の周知を図るとともに、これが十分に機能し、事故、災害等が発生した後の対応が円滑に進むよう必要な指示等を行なう。
- 5 自動車事故報告規則（昭和26年運輸省令第104号）に定める事故、災害等があった場合は、この規定に基づき、国土交通大臣へ必要な報告または届出を行なう。
- 6 重大な事故等への対応について次のように規定する。
 - （1）重大な事故等の場合には、異常時対策規程に基づき、応急措置、原因分析、再発防止対策等について全組織で迅速かつ的確な対応を図る。また、事故等の応急措置および復旧措置の実施、事故等の原因、被害等に関する調査および分析等に係る責任・権限等必要な事項を明らかにし、従業員へ周知する。
 - （2）必要な措置を実効的なものとするため、想定シナリオを作成し、必要に応じ、訓練を行なう。

（輸送の安全に関する教育および研修）

第15条 安全管理体制の確立、実施、維持に直接従事する従業員、すなわち、安全統括管理者等で安全管理に従事する者（各部門の責任者およびその補助者等）および内部監査を担当する者に対して、安全管理体制の確立等の必要性について理解させるため、次に掲げる事項に関し必要な教育・訓練を計画的に実施し、その有効性、効果を把握し、必要に応じ、当該教育・訓練の内容等の見直し・改善を図る。

- （1）運輸事業者における安全管理の進め方に関するガイドライン
- （2）安全管理規程
- （3）関係法令等

2 安全統括管理者は、第5条の輸送の安全に関する目標を達成するべく、必要となる従業員に対し、自らの職業に自尊心を持って安全対策に取り組むことができるよう、次の事項に適切に取り組む。

- （1）必要な能力の習得および獲得した技能の維持のための教育・訓練・研修を計画的に実施した上で、その有効性、効果を把握・検証し、必要に応じ当該教育・訓練の内容等の見直し・改善を図る。
- （2）「事故」体験を共有する取り組みを行なう。

（内部監査）

第16条 安全統括管理者は、自らまたは安全統括管理者が指名する者を実施責任者として、安全管理体制が適切に確立され、実施され、維持され、機能していることを確認するため、輸送の安全に関する内部監査実施要領に基づき、少なくとも1年に1回以上内部監査を実施する。また、重大な事故、災害等が発生した場合または同種の事故、災害等が繰り返し発生した場合、その他特に必要と認められる場合には、緊急に内部監査を実施する。

2 内部監査の実施に当たっては、内部監査を受ける部門の業務に従事していない者が監査を実施する等、監査の客観性が確保できるようにする。

3 内部監査を効果的に実施するため、内部監査を担当する者（内部監査員）には、内部

監査の方法等について、必要な教育・訓練を実施する。

- 4 内部監査の実施に当たっては、安全統括管理者がその重要性を従業員へ周知徹底する等の支援を行なう。
- 5 安全統括管理者は、内部監査の結果について改善すべき事項が認められた場合は、その内容を速やかに社長に報告するとともに、輸送の安全の確保のために必要な方策を検討し、必要に応じ、当面必要となる緊急の是正措置または予防措置を講じる。
- 6 安全統括管理者は、必要に応じ、外部の専門的機関に内部監査を委託することができる。

(マネジメントレビューと継続的改善)

第17条 安全管理体制のマネジメントレビューと継続的改善について次のように規定する。

(1) マネジメントレビュー

- ①安全管理体制の機能全般に関し、少なくとも1年毎にマネジメントレビューを行なう。さらに、重大事故等が発生した際は適宜実施する。
- ②マネジメントレビューの際には、安全管理体制の実施状況を確認し安全管理体制の改善の必要性と実施時期、必要となる資源等について評価を行なう。

(2) 継続的改善

- ①社長は、安全管理体制が適切に機能するように継続的に改善措置を行なう。
 - ②継続的改善を行なう際には、日常の業務実態および内部監査結果等から明らかになった課題等についてその都度検討し、必要に応じ是正措置および予防措置を講じる。
- 2 悪質な法令違反等により重大事故を起こした場合は、安全対策全般または必要な事項において現在よりも更に高度な安全の確保のための措置を講じる。

(情報の公開)

第18条 安全方針、重点施策、輸送の安全に関する目標および当該目標の達成状況、自動車事故報告規則第2条に規定する事故に関する統計、輸送の安全に関する組織体制および指揮命令系統、輸送の安全に関する計画、輸送の安全に関する予算等実績額、事故、災害等に関する報告連絡体制、安全統括管理者、安全管理規程、輸送の安全に関する教育および研修の計画、輸送の安全に関する内部監査結果およびそれを踏まえた措置内容については、毎年度外部に対して公表する。

- 2 事故発生後における再発防止策等、行政処分後に輸送の安全の確保のために講じた改善状況について国土交通省に報告した場合には、速やかに外部に対して公表する。

(輸送の安全に関する記録の管理等)

第19条 安全管理体制の運用結果を記録に残すために、次に掲げる記録を作成し、適切に維持・管理する。

(1) 安全管理体制を構築・改善する上で基本となる記録

- ①安全統括管理者から社長への報告内容に関する記録
- ②事故等に関する情報の報告内容に関する記録
- ③安全管理体制の構築・改善に必要な教育・訓練に関する記録
- ④内部監査に関する記録
- ⑤マネジメントレビューに関する記録
- ⑥是正措置および予防措置に関する記録

(2) 関係法令等により作成を義務付けられている記録

- (3) その他安全管理体制を構築・改善する上で当社が必要と判断した記録
- 2 前項に掲げる記録およびその保存の方法は文書整理規程に定めるところによる。
 - 3 記録の管理等に関しては、必要に応じて見直しを行なう。

(所管部門)

第20条 本規程の所管部門は、安全推進委員会とし、必要に応じて細則を定めることができる。

(規程の改廃)

第21条 本規程の改廃は、社則に定めるところによる。ただし、字句の訂正等、内容が軽微なものは、安全統括管理者の権限により行なうことができる。

(付則)

本規程は、平成23年6月1日から施行する。

【別表1】安全管理体制図

